

指定管理者制度活用事業 評価シート

1. 基本事項

施設名称	中原区第1グループ(新丸子)	評価対象年度	平成30年度
事業者名	・事業者名 公益財団法人かわさき市民活動センター ・代表者名 理事長 小倉 敬子 ・住所 川崎市中原区新丸子東3丁目1100番地12	評価者	青少年支援室長
指定期間	平成28年4月1日～平成31年3月31日	所管課	子ども未来局 青少年支援室

2. 事業実績

	H29	H30	H29	H30	
利用実績	1 新丸子子ども文化センター ①年間延べ利用者数	38,502	44,367人	②年間延べ利用団体数	530団体
	2 上丸子小学校わくわくプラザ ①登録者数	448人	417人	②年間延べ利用者数	27,307人
	3 西丸子小学校わくわくプラザ ①登録者数	302人	302人	②年間延べ利用者数	19,704人
収支実績	単位:円				
	1 収入 指定管理料	57,595,728			
	2 支出 人件費 管理費 事務経費 その他経費 合計	49,920,300 3,060,989 2,715,746 3,034,581 58,731,616			
3 差引	-1,135,888				
サービス向上の取組	運営協議会、保護者懇談会、子ども運営会議、日常的な利用者とのコミュニケーション等により、利用者ニーズを把握し、館の活動や運営に反映した。また、事業者のスケールメリットを活かした全館行事、区の行事やグループ行事など、地域を越えた児童の健全育成、交流の場づくりを実施した。				

3. 評価

分類	項目	着眼点	配点	評価段階	評価点
事業の推進	事業推進 及び 事業成果	「仕様書」を遵守して適切な事業の実施がなされているか。	10	4	8
		「事業計画」に基づき、着実な事業の推進がなされているか。			
		「子ども文化センター」の運営をすることにより、児童の健全な育成が図られているか。			
		「わくわくプラザ事業」を実施することにより、放課後児童の健全育成が図られているか。			
(評価の理由) ・仕様書・事業計画に基づき、子ども文化センター及びわくわくプラザ事業を適正に実施した。 ・第1・2グループ合同事業として、川崎市橘高等学校と連携し、「橘高等学校吹奏楽部コンサート」を実施した。対象を幼児から成人まで範囲を広げ、受け入れ体制も柔軟にたことにより、多世代交流の場となった。また、お手玉やわなげをゲームラリー方式で行う「新春むかし遊びゲームラリー」などを実施した。 ・新丸子子ども文化センターでは、昨年度に引き続き「シェアドッグ子ども交流会・わんわん調査隊」を4月と11月に実施した。普段、犬と触れあう機会のない児童が、犬との触れあいだけでなく、犬について調査し、深く知ることによって、命の大切さを学ぶことが出来た。 ・上丸子小わくわくプラザ、西丸子小わくわくプラザでは、以前からハロウィンまち探検を行っていたが、新丸子子ども文化センターでも、新たな取組としてハロウィンまち探検を実施した。まち探検の後は、3施設合同でゲーム大会を開催した。地域の子どもも110番を巡ることで、地域との交流も深まり、子ども達の安全・安心に対する意識づけを行うことが出来た。 ・西丸子小わくわくプラザでは、武蔵小杉駅周辺の人口増加や転出が激しい地域特性から、異学年交流を目的として、毎月1回子どもリーダーが中心となって「子どもリーダーと遊ぼう」と題した遊びの企画・運営をしており、学年を越えた交流が図られている。 ・こうした取組の結果、利用者数が昨年度と比較し、約6,000人増加した。					
サービス向上及び業務改善	利用者ニーズ	サービス向上のために、利用者等の意見を適切に把握しているか。	10	4	8
		利用者ニーズを把握し、事業実施に適切に反映しているか。			
		苦情対応など、利用者への適切な対応が図られているか。			
	特別な配慮を要する利用者への対応	特別な配慮を要する利用者への対応が適切になされているか。	5	3	3
	学校及び行政機関との連携	事業の実施にあたり、学校及び行政機関、地域の団体等との連携がなされているか。	10	4	8
	施設・事業の広報	施設を知ってもらい、事業の充実を図るための周知の活動等に取り組んでいるか。	5	3	3
	運営協議会の実施	「子ども文化センター運営協議会」が適切に運営・開催されているか。	5	4	4
保護者懇談会の実施	「わくわくプラザ保護者懇談会」が適切に運営・開催されているか	5	3	3	
・利用者ニーズについて、意見箱の活用や、行事の取組後に回収するアンケート、子ども運営会議等を通じて、利用者ニーズ把握に努め、施設利用ルールや購入図書の設定等に反映している。上丸子小わくわくプラザでは、「夏休みに昼寝をしたい」という要望が意見箱にあり、夏休みの行事として「ごろごろシネマ」を実施しました。また、子ども運営会議で「校庭の遊具を制限なく遊びたい」との意見があったため、スタッフ間で過去の経緯や安全な方法を検証し、職員体制等を工夫することで、遊具を出来るだけ自由に利用することとした。 ・特別な配慮を要する児童への対応について、小学校の先生と情報交換会を開催したり、巡回相談員に相談して、適宜具体的なアドバイスを受けるなど、適切な対応が図られている。 ・学校及び行政機関との連携について、小学校や老人いこいの家等と連携して、特色のある事業を実施している。特に、新丸子子ども文化センター及び管轄わくわくプラザ合同行事として、中原区社会福祉協議会、中原中学校区地域教育会議、中原消防署と連携により、上丸子小体育館を借りて実施された「わくわくコンサート」は、川崎市で活動しているアーティストのコンサートや防災の映画会、花火鑑賞などの内容で、乳幼児親子から高齢者まで、昨年度よりも多い180人ほどの参加があり、地域を巻き込む取組につながる事業となった。 ・施設・事業の広報について、施設・事業の周知のための広報等を定期的に行っている。 ・運営協議会の実施について、各町内会長と子ども育成会会長が中心となり、PTA役員、民生委員、児童員、地域教育会議等のメンバーが集まり、会議を円滑に実施出来るよう会議前に三役会を行う工夫をした。協議会で、地域の商店街等との連携の提案があり、今まで行っていたまち探検をハロウィン町探検として、地域の商店街や施設を訪問するという取組を実施した。 ・保護者懇談会について、懇談会が事業計画どおりに開催されている。					

組織管理体制	適正な人員配置	「児童福祉施設の設置及び運営の基準に関する条例」第54条に基づく職員配置がなされているか。	10	3	6
		「仕様書」において定める職員配置の最低基準が順守されているか。			
		「川崎市公契約条例」が遵守されているか。			
	職員の研修体制	職員の資質向上のために必要な研修が実施されているか。	10	4	8
職員が研修に参加しやすい仕組みづくりがなされているか。					
個人情報等の取扱	法人として、個人情報保護に関する規定や体制を整備しており、適正に取り組んでいるか。	5	3	3	
<p>・適正な人員配置については、こども文化センター及びわくわくプラザにおいて、仕様書・事業計画に基づき、適正な配置がされている。</p> <p>・職員の研修体制については、館内会議やスタッフ会議等において、研修を受講した職員がその知識を共有しているほか、研修資料やレポートをファイル等に一元化して管理し、職員が閲覧できる等、共有化の仕組み作りができています。さらに、中原第1・第2グループで行った「遊びの研修」では、すぐ実践できるプログラムと職員がリフレッシュできるメニューを中心に、職員全員でダンスの復習をするなど、研修で習得した手遊び等の知識スキルを共有し、わくドキタイムですぐに実践することが出来た。</p> <p>・個人情報の取扱については、法人において定めている、個人情報保護方針及び取扱規定に基づいて、個人情報等は鍵のかかる保管庫に保管されている。また、個人情報の漏洩の事実はありません。</p>					
適正な業務実施	施設・設備の保守管理	安全な施設利用のため、施設や設備の保守・点検を適切に行っているか。	5	3	3
		必要に応じて適切な維持・補修がなされているか。			
		備品等の管理が適切になされているか。			
	利用者の安全確保	利用者の安全を確保するための体制が整っているか。	5	3	3
		事故等が発生した場合に迅速かつ適切な対応が図られているか。			
		事故防止や感染症予防対策等が事前に図られているか。			
	防犯対策及び災害時の対応	施設の防犯対策に工夫がなされているか。	5	4	4
		災害発生時に備えた対応が図られているか。			
		災害発生時に適切な対応・行動ができる取組がなされているか。			
<p>・施設・設備の保守管理については、こども文化センター・わくわくプラザ共に、施設・設備の保守点検を日常的に行い、補修が必要な場合は、適宜工事等実施している。</p> <p>・利用者の安全確保については、財団作成の各種マニュアルに沿って、事故対応や衛生管理等を適切に行っている。特に、アレルギー対応では、おやつ提供時などにおける複数人によるチェック、アナフィラキシー発症時の対応の勉強会、食物アレルギー研修参加職員による他職員へのフィードバック等もしている。</p> <p>・防犯対策及び災害時の対応として、法人作成の「不審者対応マニュアル」や、館ごとに作成している「災害時対応マニュアル」に基づき、災害備蓄品の常備や消防訓練、避難訓練の実施等、防災体制の強化に取り組んでいる。また、地域教育会議の取組である「愛のパトロール」に職員が参加し、地域の子どもの見守りに寄与するなど、地域団体との積極的な連携を図っている。</p>					
収支計画・実績	適切な金銭管理・会計手続	法人の規定等に沿った適切な会計処理と金銭管理がなされているか。	5	3	3
		「事業計画」に沿った適切な支出がなされているか。	5	3	3
	効率的・効果的な支出	効率的な執行に努め、経費削減に具体的に取り組んでいるか。			
		支出に見合う効果が効果が得られており、サービス水準も確保されているか。			
<p>・金銭管理・会計手続については、適正に行われている。</p> <p>・受託20グループ52施設を管理している運営法人のスケールメリットを活かし、一元的な臨時職員の雇用・管理、警備等業務委託の一括契約、消耗品や備品の一括購入等の取組により、効率的・効果的な経費の支出がなされている。</p>					

#### 4. 総合評価

評価点合計	70	評価ランク	B
-------	----	-------	---

#### 5. 事業執行(管理運営)に対する全体的な評価

市内20グループのこども文化センター及びわくわくプラザの指定管理を行うスケールメリットを活かし、効率的・効果的な事業運営を行っている他、全館・全区合同事業の実施、経験や役割に応じた計画的な研修実施によって職員の資質向上を図り、また研修内容・事故状況等の情報を全館で共有するなどにより、安定的で良質なサービス提供を行っている。

また、利用者の声をよく聴き、運営の改善に活かすとともに、衛生管理、事故の防止や対応等利用者の安全確保に向けて取り組んでいる。「橘高校吹奏楽コンサート」、「ハロウィンまち探検」「まるんパーク」「シェアドッグ子ども交流会」など、地域との連携による行事やテーマ性を持った行事を実施している。施設の広報においては、乳幼児から高校生まで幅広い利用者を対象にたよりを発行しているだけでなく、中原区発行の情報誌への行事の掲載や中学校への配布も行っており、利用者の増加に努めている。また、利用者の安全確保においては、熱中症対策として30分毎の休憩と水分補給を実施し、子どもの表情をよく観察して早目の声かけを行うことで、事故件数が昨年度に比べ半数以下となるなど、事故防止が図られている。

#### 6. 来年度の事業執行(管理運営)に対する指導事項等

今後も、地域社会全体で子どもを見守り育て、安全・安心な居場所となるよう、環境整備や職員のスキル向上に努め、学校、行政、地域の各団体が共に連携しながら地域づくりを進めることで、職員と子どもの顔の見える関係を築き、小中高生から高齢者まで、多世代にとって、居心地のよい場となるよう努めること。また、より効果的な広報を行うために、対象年齢を捉えた広報について工夫をこらすなど、さらなる積極的な取組が望まれる。